

試験研究活動情勢報告（平成30年7月分）

簡易環境制御によるナシ「新高」の高品質安定生産技術の確立

～マルチ・かん水技術の開発～



マルチ&かん水の様子

高知県の特産果樹であるナシ「新高」では、夏場の高温・乾燥によるみつ症の発生が問題となっています。土壌水分を一定に保つことで発生を軽減できると考えられるため、マルチとかん水を組み合わせたみつ症軽減技術について検討しています。

土壌からの蒸散を防止し、保水性を高めるために白色透湿マルチの下に透明ポリマルチを設置した区と、土壌乾燥を促す白色透湿マルチ区の2区を設け、みつ症軽減効果について調査しています。

また、樹上のミスト散水のみつ症軽減効果についても調査していきます。

【果樹試験場】

ハウスミカンにおける炭酸ガス施用技術の開発



収穫の様子

7月3日～31日まで炭酸ガス施用試験ハウスのウンシュウミカンを収穫しました。炭酸ガスは加温開始時の12月15日～サイド開放時の5月14日まで換気扇連動方式の600ppm設定で施用しました。収量は過去5年間の平均より約1割増加し、果実の中心階級は平年の2S、S級からS、M級となり、炭酸ガス施用によって肥大が促進されたと考えられました。今後は炭酸ガス施用時の適正な着果量や灌水量についても検討予定です。